

工事の げんば 現場より

亭榭保存修理事業

今はこんな様子だよ。

7月3週目



檜皮葺屋根は屋根を形作る檜皮（＝檜の樹皮）だけでは成り立たず、その下には土台となる木の骨組みが大まかな屋根の形を作り上げています。檜皮は傷んだら取り替える消耗品であるのに対し、骨組みの木はよほどの劣化が無い限り基本的には替えることなく使い続けます。とはいえ今回は雨漏りが発生していたこともあり、一部の木材は再利用が難しいほど腐朽劣化が進んでしまっていました。そういう場合も健全な部分は極力残しつつ、傷んだ部分だけを取り去って新しい木を補う「矧木※」と呼ばれる手法を用い、可能な限り古いものを受け継いでいきます。文化財を遺していくにはこういった「匠の技」が欠かせません。

※矧木：木材を木目に沿って幅方向に矧いで、繋ぎ合わせる方法。
この場合、傷んでいる部分を切り取り去り、新しい材を同型に加工して繋ぎ合わせ補う。



今回矧木
予定箇所

前回（平成16年）
矧木箇所



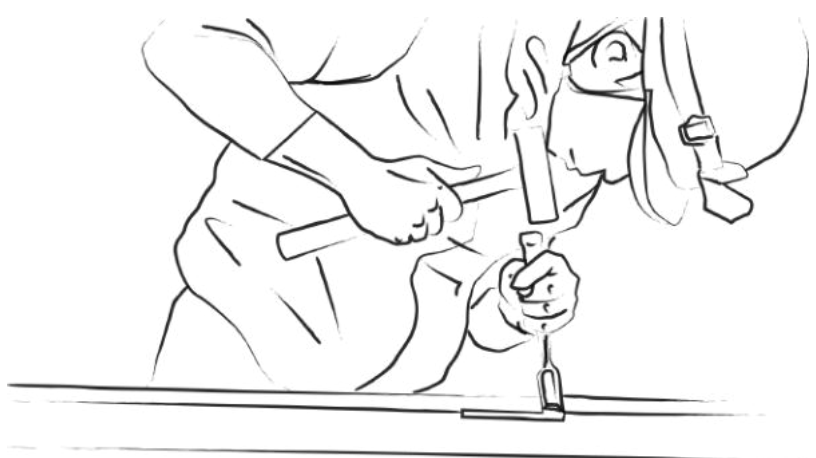
◀ 再利用可能なものは後でまた元の場所に戻すため、場所の記録となる「番付」をつけてから、極力材を傷つけないように丁寧に解体します。

のみ鑿を使い、腐朽劣化している箇所だけを丁寧に
取り去っていきます。



◀ 取り去った傷んだ部分に合わせて、新しい木材を形を合わせて作り繋ぎ合わせます。

職人file 04【大工】



木造建造物工事の花形といえば「大工」。ただし修理工事においてはその仕事の功績が分かりにくいのが泣き所。屋根や壁の修理では大工が作った下地の上に仕上げが載るため隠れ、矧木修理箇所などで外部に露出する部分では古い材に馴染むように古色※が施され、修理した箇所が目立たないようにになります。

ひるがえ
翻って、目立たずに「どこを直したかわからない」と言わせるのが、修理大工の良い仕事と言えます。目を凝らして探してみてください。

※古色：新しい木材に色を付け、古い木材に馴染むようにすること。色付けには墨や柿渋・砥の粉などを用いるほか、土や埃なども混ぜ込んで適切な色となるよう調色をする。